

# 老健施設における新型コロナウイルス感染症(COVID-19)集団感染 (クラスター)発生時の併設医療機関、関連施設との連携

～効果と課題について、相談室の立場から～

施設名:介護老人保健施設 亀の里

発表者:新垣 蘭香(SW) 比嘉 尚子(CM)

池田 綾乃(SW) 新垣 恵(SW)

大城 真悟(CW) 平良 伸一郎(Dr)

## 【はじめに】

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は 2019 年末、中国・武漢市に端を発しその後、全世界へ感染が拡大した。沖縄県でも複数回の感染流行拡大を経験しており、2022 年 10 月時点で累積感染者数 50.8 万人、累積死者数 775 人となっている。老人福祉施設においても標準予防策、ワクチン接種などの感染対策を徹底しているが集団感染（クラスター）の報告は後を絶たない。当施設では 2022 年 8 月、感染者数 71 名（施設利用者 43 名、職員 28 名）の大規模クラスターを経験した。併設医療機関や関連施設との連携により急性期医療機関への入院や死亡者を出すことなく 33 日間で収束させることができたので文献的考察を加え報告する。

## 【目的】

当施設で経験した COVID-19 クラスター発生時の併設医療機関、関連施設との連携について報告するとともに、相談室の立場から効果と課題について検討する。

## 【方法】

COVID-19 クラスターに対する感染対策期間（2022 年 7 月 31 日～9 月 1 日の 33 日間）において併設医療機関との連携（感染者の入院・治療、職員派遣）、関連施設との連携（職員派遣）について振り返りを行った。

## 【結果】

クラスター発生時の施設利用者数 76 名（平均介護度 3.6）、職員総数 62 名。2 つある居室フロアでほぼ同時にクラスターが発生した。

感染者数 71 名。施設利用者 43 名（軽症 12 名、中等症 I 20 名、中等症 II 11 名）。職員 28 名（医師 2 名、看護師 6 名、介護職 15 名、リハビリテーション専門職（リハ職）4 名、介護支援専門員 1 名）（軽症 28 名）。

併設医療機関（回復期リハビリテーション病院）COVID-19 患者用病床 12 床。

入院依頼基準：基礎疾患ありかつ中等症以下。  
入院依頼総数 18 名（年齢 52～100 歳、介護度 2～5）、発症翌日までに入院（入院期間 10～16 日間）。  
関連施設（回復期病院、デイサービス、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム）  
職員派遣 24 名（看護師 10 名、介護職 7 名、リハ職 7 名）。

支援相談員は、清潔区域で利用者の状況把握と、物品管理の後方支援作業を担当した。また、感染者家族への連絡や入院先職員への情報提供書類作成を中心に対応した。家族連絡は当日で対応できたが、入院先への情報提供は、発症前後の日常生活動作(ADL)状況把握に時間を要し、転院後の情報提供となった。また、利用者が治療後再入所する際、家族へ連絡されていない事があり、病院連携室との情報共有が不足していた。

## 【考察】

併設医療機関へ入院依頼を行うことで、感染者を速やかに転院させることができたこと、関連施設からの職員派遣支援が受けられたことが、大規模クラスターにも関わらず 33 日間という比較的短期間で収束に至った要因と考えられた。

支援相談員は、清潔区域での業務、緊急性のある感染者の連絡調整に追われ、連絡業務が滞り、利用者家族への感染状況に関する情報提供が不足した。また、長期入所の利用者に関しては既存の情報が更新できておらず、転院調整にあたり再作成する場合もあり、情報共有に遅れが生じた。日頃から常に利用者情報を更新しておく必要があると感じた。

## 【まとめ】

老健施設において COVID-19 大規模クラスターを経験した。

今回の経験から併設医療機関との連携シートを作成し、利用者家族への連絡手順を話し合った。今後は、迅速な連携・情報提供の強化を行ってきたい。